

日交研シリーズ A-719

平成 29 年度研究プロジェクト

「道路上の電柱撤去と電線地中化の便益計測」

刊行：2018 年 5 月

ヘドニックアプローチによる無電柱化の便益の計測

Estimating the willingness to pay for undergrounding utility lines in Japan with a hedonic approach

主査：河野達仁（東北大学大学院教授）

Tatsuhito Kono

## 要 旨

本研究は今後の無電柱化プロジェクト評価に利用可能な無電柱化の便益額の計測を目的として、全国の住宅地の無電柱化に対する 1 世帯当たりの支払意思額を無電柱化箇所とその周辺に分けて推計する。便益の計測は固定資産税路線価を使用したヘドニックアプローチを適用する。地価関数は 8 地方区分に準拠した地域で、対象地域の地域全体、人口集中地区（DID）、非人口集中地区（非 DID）のエリアごとに設定する。分析の結果として、前面道路地中化に対する支払意思額は東北を除いて、一世帯あたり概ね 5,000 円/月から 9,000 円/月、地中化周辺道路に対する支払意思額は 23 区を除いて概ね 3,500 円/月から 7,000 円/月となることが明らかになった。ただし、電柱地中化に際して、付帯事業（歩道の改良など）が一般的に行われる。この付帯事業のデータ入手が困難であり、本研究ではこの価値を分離できていない。すなわち、標準的な付帯事業込みの電柱地中化の便益の推計値を計測している。

キーワード：プロジェクト評価、電柱地中化、支払い意思額、ヘドニックアプローチ

Keywords : project evaluation, undergrounding utility lines, willingness to pay, hedonic approach